

現行学習指導要領の 新しい評価について

～校務支援システムを導入した新しい通知表～

2022年2月
鎌倉市立富士塚小学校長
市川 昇一郎

今なぜ新しい通知表なのか

- ・ 昨年度から現行の学習指導要領実施。その趣旨に沿った新しい評価が学校現場に強く求められている。
- ・ 通知表にかかる膨大な事務処理軽減のため、鎌倉市教育委員会では通知表の電子化に対応できる校務支援システムの導入をした。（本年度）
- ・ その結果、昨年度本校通知表を変更したばかりだが、さらなる変更が必要となった。

学習評価の目的

評価にはいくつかの機能がある。

- ▶ 「伝達機能」⇒評価した結果を保護者や子どもに伝えること。
伝える場や機会…**通知表**、個人面談、電話など
- ▶ 「指導機能」「学習機能」⇒指導方法の改善・充実、子どもの学習改善に生かすこと。**=主目的**
- ▶ 「管理機能」⇒指導要録の作成・記載は義務づけられている。
「学籍に関する記録」と「指導に関する記録」がある。

観点別学習状況の評価について

【前指導要領】

学習評価の4観点

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

偏重

【現指導要領】

(2020年度～)

学力の3要素

知識及び技能

思考力・判断力
・表現力等

主体的に学習に
取り組む態度

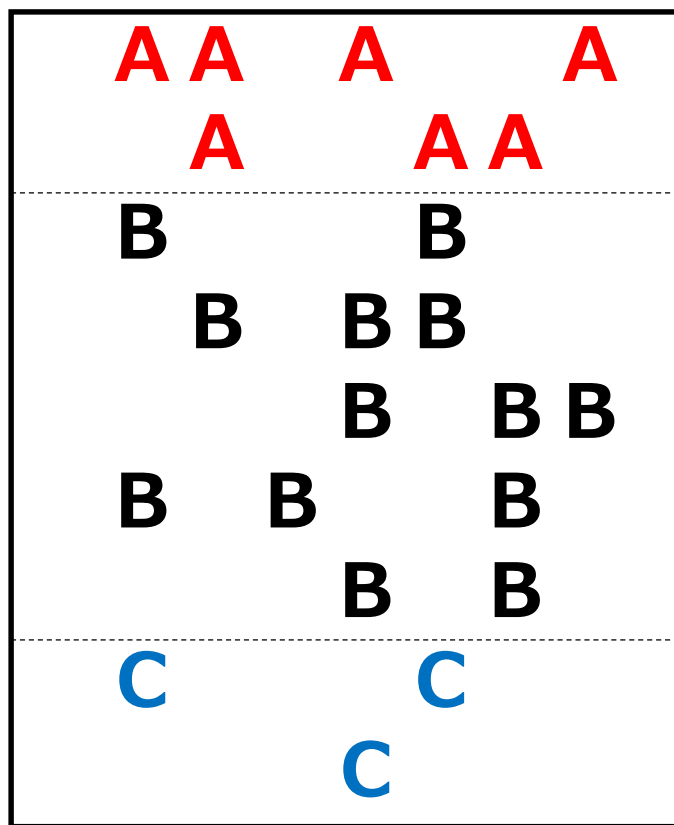
一方で現状の課題としては、いまだに評定が学習指導要領に定める目標に照らして、その実現状況を総括的に評価するものであるという趣旨が十分浸透しておらず、児童生徒や保護者の関心が評定や学校における相対的な位置付けに集中し、評定を分析的に捉えることにより、学習の改善を要する点がどこにあるかをきめ細かに示す**観点別学習状況の評価に本来的に期待される役割が十分発揮されていない**と指摘されている。

「児童生徒の学習評価のあり方について」(報告)

2019.1.21 文部科学省

3段階評価のイメージ

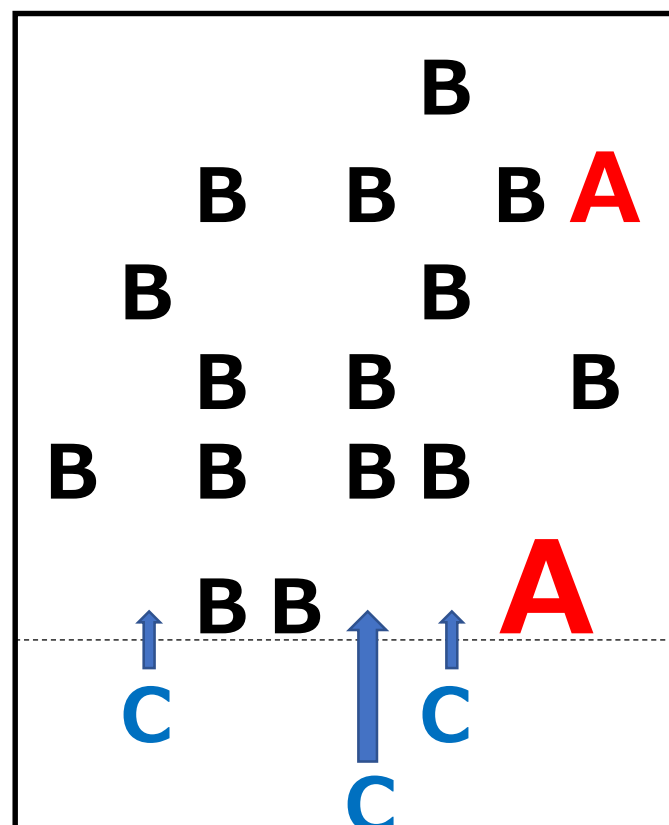
基準



基準

一般のイメージ

A



文科省のイメージ

目標に準拠した評価

「C」を見つけ、支援の具体的な手立てを考える。教員の第一の仕事は、「C」を「B」にすること。「A」は青天井であって、「A」の具体は示さない。ただし、教員は「A」の根拠を明確にしておく。

高木展郎（横浜国大）
林 紋子（玉川大）

今年度までの本校通知表

教科	観点	学習のねらい	よい	少し
国語	知識・技能	漢字を正しく読んだり書いたりする		
	思考・判断・表現	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の思いが伝わるように話す		
		目的や場面に応じて工夫して文章を書く		
		目的に応じて内容や要旨を把握しながら読む		
社会	知識・技能	日本の国土の特色や日本の食料生産について調べたり理解したりする		
	思考・判断・表現	資料などを調べ、目的に応じた方法で表現する		
算数	知識・技能	小数のかけ算・わり算の計算をする		
		平均や単位量あたりの考えについて理解し、その大きさを求める		
	思考・判断・表現	合同な図形に関して成り立つ性質を見だし、その性質を活用して、合同な図形のかき方を考える		
理科	知識・技能	ふりこの運動の特徴、種子が発芽する条件などについて理解する		
		目的に応じて観察実験をする		
音楽	思考・判断・表現	観察実験の過程や結果、台風の接近について自分の考えをまとめる		
	知識・技能	全体の響きを聴き、歌ったり演奏したりする		
音楽	思考・判断・表現	曲の特徴を考えて表現をする		

他市町の現行通知表の例

3学期の様子

目標に達している場合は「○」、現時点では目標に達していない場合は「△」で表しています。ただし、目標に達したうえでさらに顕著な現れがあり、十分目標に達している場合は「◎」で表しています。

	評価の観点	
国語	知識及び技能を身につける	
	思考力・判断力・表現力を身につける	
	主体的に学習に取り組む	
社会	知識及び技能を身につける	
	思考力・判断力・表現力を身につける	
	主体的に学習に取り組む	
算数	知識及び技能を身につける	
	思考力・判断力・表現力を身につける	
	主体的に学習に取り組む	
理科	知識及び技能を身につける	
	思考力・判断力・表現力を身につける	

来年度の以降の通知表例（５年生１学期の案）

教科	評価の観点	評価項目	一学期
国語	知・技	語句の意味や使い方を理解し、文字を読んだり書いたりすることができる。また、学習した漢字を文や文章の中で使うことができる。	
	思・判・表	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げる。	
	態度	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとしている。	
社会	知・技	我が国の国土の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連をふまえて理解することができる。また、地図帳などの基礎的資料を通して情報を適切に調べ、まとめることができる。	
	思・判・表	我が国の国土、産業の様子に関する社会的事象の特色やよさについて考えたり、課題解決に向けて選択・判断したことを説明したり、議論したりすることができる。	
	態度	我が国の国土や産業の様子に関する社会的事象について関心をもち、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。	
算数	知・技	数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、技能を身に付けている。	
	思・判・表	数学的活動を通して、見通しをもち筋道を立てて、数量や図形の性質などを見いだし考える	

・ 知識及び技能

・ 思考力・判断力・表現力

・ 主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」について

○ その際、「**学びに向かう力・人間性等**」に示された資質・能力には、**感性や思いやり**など幅広いものが含まれるが、これらは**観点別学習状況の評価**になじむものではないことから、**評価の観点**としては学校教育法に示された「**主体的に学習に取り組む態度**」として設定し、**感性や思いやり等**については**観点別学習状況の評価の対象外**とする必要がある。

○ すなわち、「主体的に学習に取り組む態度」と、資質・能力の柱である「**学びに向かう力・人間性**」の関係については、「**学びに向かう力・人間性**」には①「**主体的に学習に取り組む態度**」として**観点別評価**（学習状況を分析的に捉える）**を通じて見取ることができる部分**と、②**観点別評価や評価にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価**（個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）**を通じて見取る部分があることに留意する必要がある。**

来年度の通知表について

- ・ 1～2年生は2段階評価、3～6年生は3段階評価とする（現行通り）。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分を3段階評価。
- ・ 「所見」は年度末の1回のみとする。
- ・ 評価項目やその他の細かい点については、現在検討中である。